

オンライン講座

明治学院大学経済学部創立70周年

2021年度 明治学院大学みなと区民大学 「ウイズコロナ・ アフターコロナ時代の経済学」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は現在進行形で私たちの暮らしや経済に大きな影響を与えています。コロナ禍は人々に行動変容をもたらし、テレワークの導入など働き方も大きく変わりました。また企業、特に中小企業の業績や資金繰りは深刻な影響を受けています。コロナ禍以前から抱えていた日本経済の深刻な問題にも我々は直面し続けています。例えば、コロナ禍における財政支援でさらに巨額となった財政赤字や政府債務残高の累増をどう解消するのか、ゼロ金利・マイナス金利といった異次元の金融緩和政策の副作用や出口戦略をどのように考えるのかといった課題です。さらに時間軸を長くとらえれば、100年前のスペイン風邪の流行がその後の経済学のあり方に影響を与えたように、今回のコロナ禍は遠い先の将来から見て経済学の歴史的な転換点ともなりうるかもしれません。本講座ではコロナ禍が個人や企業の経済行動、そして金融や財政に与える影響を、統計データによる分析や最先端の行動経済学と経済実験による手法、そして歴史的な分析など多角的な視点から考察していきます。

産業経済研究所の母体となる経済学部は今年創立70周年を迎えました。70年間の伝統や蓄積を踏まえ、今回の講座ではウイズコロナ・アフターコロナ時代の経済学についてみなさんとともに考えたいと思います。

各日18:45~20:15

日付	講演テーマ	講演者
10/5 (火)	コロナ禍が金融経済にもたらした影響 -創設70周年を迎えた 経済学部の活動紹介とともに-	佐々木百合 (本学経済学部教授 (経済学部長))
10/7 (木)	日本の財政の現状 -コロナ禍の衝撃を受けて 高まる不安とその対応-	田近栄治 (一橋大学名誉教授)
10/12 (火)	期待や情報は企業行動を変えるか? -コロナ中小企業調査からの示唆-	児玉直美 (本学経済学部教授)
10/14 (木)	社会と心の相互作用 -行動経済学と実験から読み解く ウイズコロナ社会の制度設計-	犬飼佳吾 (本学経済学部准教授)
10/19 (火)	人々の働き方はコロナで どう変わったか? -データから読み解く-	太田聰一 (慶應義塾大学 経済学部教授)
10/21 (木)	戦間期にケインズとエッジワースが めざした戦争回避への道 -スペイン風邪の時代から学ぶ経済学の展望-	中野聰子 (本学経済学部教授 (副学長))

受講料: 2,500円 (全6回)

企画: 明治学院大学産業経済研究所

共催: 公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団

実施形態: オンライン形式 (Zoomミーティング)

問い合わせ・申込み先

明治学院大学 総合企画室社会連携課 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
TEL: 03-5421-5247 (平日9:00~16:00) E-mail: skoukai@mguad.meijigakuin.ac.jp



◀ 申込み、詳細はこちらへ